

第10回千葉県資源評価検討会議 会議録

- 1 開催日時 令和元年8月28日(水) 午後1時30分～午後2時30分
- 2 開催場所 千葉県庁南庁舎2階 第一会議室
- 3 出席者 <構成員>
 県農林水産部水産局漁業資源課長 篠原 克二郎
 県水産総合研究センター次長(資源研究室長事務取扱) 梶山 誠
 東北大学大学院農学研究科 教授 片山 知史
 <その他>
 県関係職員12名

4 検討事項

- (1) 資源評価基準について
- (2) 令和元年度資源評価対象種の選定について
- (3) その他

5 検討事項の概要及び検討の結果

(1) 資源評価基準について

事務局から第1回千葉県資源評価検討会議において決定された資源評価基準は変更せず、従前の基準により評価を行う旨説明があり、事務局(案)のとおり取り扱うことが承認された。構成員及び出席者からの意見等は以下のとおり。

- ・ 構成員から、資源水準で4分位を用いる方法は一般的であるか質問があり、担当者から資源水準で4分位を用いる方法は、評価する機関によって異なる。3分割や3分位を用いる場合もあり、千葉県も当初、3分割による評価を行っていたが、評価にブレが生じやすいため4分位とした経緯がある旨回答があった。
- ・ 議長から、評価基準についての漁業者からの意見等はあるか質問があり、事務局から評価基準について、漁業者からの意見・要望の調査を行っているわけではないが、漁業者の感覚とずれが生じた場合、特に漁獲が低迷している魚種については平成30年度から丁寧な説明を加えるよう対応している旨回答があった。

(2) 令和元年度資源評価対象種の選定について

今回の検討の結果、昨年度の資源評価対象種については、今年度も引き続き資源評価を行うこととし、サワラ、タチウオ、ホンビノスガイ等の資源評価候補種については、当面の評価実施の総合判断の整理を行うことが承認された。また、ホンビノスガイについては次回会議に現在の情報を関係者間で共有することとなった。構成員及

び出席者からの意見等は以下のとおり。

<資源評価対象種について>

- ・事務局から、今年度の資源評価対象種については、特段の状況の変化もないことから、昨年度と同じ魚種の資源評価を行う旨説明があり、承認された。

<資源評価候補種について>

- ・議長及び事務局から、ホンビノスガイについては、東京湾北部の漁業者により漁獲されており、漁業者は資源管理の必要性を認識している旨説明があった。
- ・担当者から、ホンビノスガイについては漁協により漁場、漁法が異なり、生態情報もわからないことが多いため、資源評価できるか判断が難しいが、調査範囲を絞れば取り組めると考えられる旨意見があった。
- ・議長から、現在評価が行われている15魚種についても資源評価の精度は異なっているため、重要性が高いと思われるホンビノスガイについて、情報が足りなくても評価できるのではとの意見があった。
- ・構成員から、他県の資源評価会議では、資源評価が難しい魚種については、現在の情報を関係者間で共有し今後の検討に使用している旨意見があった。
- ・構成員から、重要種として候補の出たサワラについては来遊資源であるが来遊ルートがよく分かっていないため、千葉県だけで管理することは難しい。ホンビノスガイは定住性資源なのでうまく管理すれば長く利用できる。東京湾のホンビノスガイのデータの蓄積は十分でないとのことだが、資源の加入、年級組成が分かれば、10～15年のデータでも資源評価は可能である。タチウオは地先資源か来遊資源の判断が難しいので、隣県と情報共有することで資源管理の取組が見えてくるかもしれないと意見があった。
- ・議長から、資源評価候補種については、当面の評価実施の総合判断の整理をする。ホンビノスガイについては次回会議に現在の情報を関係者間で共有する旨意見があり、構成員から承認された。

(3) その他

事務局から今後のスケジュールと次回の資源評価会議の予定を説明し特に意見はなかった。